



Q5…長く元気で透析ライフを過ごす秘訣は何だと思いますか。

安達氏—40年間欠かさずに血圧や自分の体調の状態をノートに記録している。仕事が電気店なので屋根に登つてのアンテナ工事等、戸外での仕事も多く、自分の体重の変動が激しく、基礎体重が変わることが多かった。



▲ 夫唱婦随で乗り切った40年。安達ご夫妻

その後、自宅の近くの透析クリニックを紹介された。それまでに幾つかの病院を見学したが、結果、東海クリニックにお世話になることになって、現在も通院している。

太田先生が成田記念病院に診察に行っていたので、骨密度の検査で2〜3回豊橋にも行ったことが懐かしく思い出される。

Q3…透析40年の間で、最も印象に残っていることは何でしょうか。

安達氏—自分と一緒に透析を始めた仲間が、ある時、入院時に見舞いのイチゴを1パック全部食べてしまい、その後、心不全で亡くなったと聞き、カリウム摂取のオーバーだと気づき、それから食事には随分と気を付けるようになった。

Q4…御家族の協力があってこそ…。

安達氏—私は仕事で電気店で、安達ラジオ店を経営していた。透析施設への送り迎えに妻が協力してくれた。透析後、血圧が90を切る時などは、自分で運転できないので、妻が運転して帰るのも度々で、妻には本当に感謝している。

自分の体調について、看護師や先生と良く相談もした。そのような相互のコミュニケーションが常にあつたので40年間も透析が続けられたと思う。

Q6…透析導入して間もない患者に対するアドバイスを…。

安達氏—人工透析の医療技術が向上したせいなのか、透析に対する先生や透析スタッフの対応が昔ほど厳しくはないが、やはりしっかりと栄養士の指導をよく聞いて、自分できちんと食事管理をして欲しい。

Q7…最後に、40年に亘る夫の透析生活を支えて来られた奥様に一言感想をお聞きしましょう。

安達氏夫人—「正直、うんざりですね(大笑)。透析患者の皆さん、奥様を家族を大切にしてください。」

編集部 貴重なアドバイスを有り難うございます。これからも夫唱婦随で透析45年、50年を目指して下さい。

Q2…透析導入時はどんな状況でしたか。

Q1…透析40周年の表彰台に立った時、最初に感じたことは、どういふものでしたか。

安達辰夫氏—とても嬉しかった。20年、30年、35年の表彰の時も全部参加している。

今年、全腎協の神戸大会に招待された。今まで家族をどこへも連れて行くことが出来なかつたので、いい機会だと思いい旅行を兼ねて妻と子供2人と一緒に参加した。息子が宿泊のホテル(ポートピアホテル)でケーキでお祝いしてくれて、とても感激した。

Q2…透析導入時はどんな状況でしたか。

安達辰夫氏—昭和50年10月に車の免許証を更新する際、視力検査で一番上の大きな記号が見えなくて、おかしいなと思った。そこで12月18日に地元の渡辺病院で診察を受け、その後足がむくんで来たので増子記念病院を訪ねた。結局、足に外シャントをつくって透析を始めることになった。当時、山崎先生や川原先生には大変お世話になった。

最初、座ることが出来なかつた。透析を初めて1ヵ月後にやっと座れるようになった。リハビリを兼ねて、知多郡美浜町から増子記念病院まで通つたが、当時、名古屋駅から増子記念病院まで歩いたことを覚えてる。

勿論その頃はエリスロポエチンなど無く、ヘマトクリットが19以下だったので階段を登ることや長距離を歩くのは大変だった。ちょうど妻のおなかに子供がいたので、2〜3年しか寿命が無いと云われようが、頑張るしかなかった。

当時の透析機器や透析剤は良くなかつたので、透析が終わった後に全員が吐き気でもどしてしまふ状態だった。ベット横には患者全員に膿盆が用意されていた程の状況だった。

7月16日(土)、この度透析40周年表彰を受賞された安達辰夫氏宅を訪問しました。

40年前は、今日の進化した透析環境とは異なり、透析医療の初期時代で、医師をはじめ透析スタッフがとても苦労されて透析治療に関わっておられました。患者もそれに応えて医師や看護師、技師、栄養士の勤告助や助言を忍耐強く守り、世界に先駆けた現在の透析医療環境を築いて頂いて来たことに、透析患者として改めて敬意を表したいと思います。



殊に当時、透析治療が必要にもかかわらず、透析を受けられずに亡くなられた方々が数多く居られたと聞くにつけ、今日「透析医療環境は世界一である」日本に生まれたことに感謝したいと思います。

更にこれまで愛腎協等、先輩諸氏の患者会活動の推進により、現在の透析に関する医療、介護、福祉制度を勝取って来られたお陰で、今の私たちが多大な恩恵を受けている事実を知るならば、今ある医療、介護、福祉制度の継続の為に、私たち患者が一丸となって協力・団結して行動しなければならないと強く感じます。

それでは温故知新、安達辰夫氏の40年の透析人生をお聞きしたいと思います。

(聞き手:愛腎協編集委員会)

会員訪問 温故知新—透析生活40年を語る 東海クリニック患者 安達辰夫氏

900